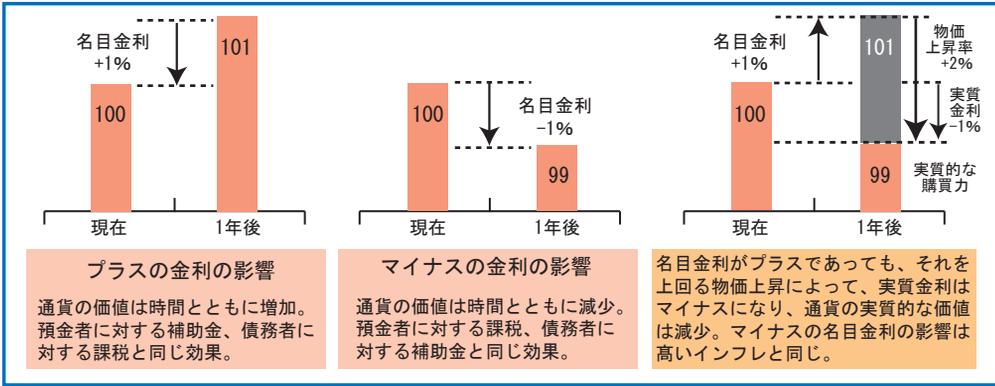




「世界及び日本の経済見通し」について

講師 野村証券株式会社 投資情報部課長
佐々木 敏彦氏



マイナス金利

マイナス金利の世界では、お金の価値は時間の経過とともに減少します。マイナス金利の付いた預金やマイナス金利で貸し出された融資の残高は、時間が経てば減少します。

ポートフォリオ・リバランス効果

量的・質的金融緩和策の目的の一つに、「ポートフォリオ・リバランス効果」がありますが、これは日銀当座預金や国債等の安全資産の利回りの低下を受けて、邦銀や株式等のリスク資産に移すことを指します。

2016年度 2次補正予算

政府は8月2日の臨時閣議において「未来への投資を実現する経済対策」を閣議決定しました。事業規模は28・1兆円で、その

このため、マイナス金利は、預金者や資金の貸し手に対する「税金」に例えることができず。一方、債務者は負債額が減少するため、マイナス金利は債務者に対する「補助金」と見なすことが出来ず。

まずは円安・株高

6〜7月の米雇用統計を受けて、FRBの年後半の利上げ期待が再度、高まりつつあります。まずは、円安・日本株高が進む可能性があります。

7月の日銀金融政策決定会合において、金利を引き下げる措置の発表が無かったことや、次回9月の会合において政策委員が現行の金融政策の効果等を総括的に検証するとの方針が発表されたことから、金融市場では国債購入量の縮小が意識されて、7月29日以降、長期金利が急上昇しました。今後の日本の長期金利は、米金利の影響を受けつつも、日銀の国債購入量の減額が短期的には見込め

新興国の景気

2014年度夏以降、米FRBの利上げ観測を背景に、新興国通貨の下落が加速し、さらに、2015年8月11日に中国人民銀行が人民元の事実上の切り上げを実施したことから、中国景気や通貨競争に対する懸念が高まり、2016年1月にかけて新興国・資源国通貨が急落しました。

2月以降ドルの下落によって新興国通貨は上昇局面に入りましたが、4月後半以降、FRBの利上げ見通しの変下に応じて上下動が続いています。主要新興国では、インドやメキシコ、インドネシア、トルコは堅調な景気拡大が続く一方、中国やブラジル、ロシア、南アフリカは、減速基調にあります。

ロシアやブラジルは、GDP成長率は大幅なマイナスであるものの、景気先行指数は改善の方向に向かっています。

FRB...米国の中央銀行にあたる連邦準備制度の中枢機関